

モデルコース① 棒道の石仏探訪コース

棒道沿いに存在する西国三十三所・坂東三十三所の石仏群を巡拝する

江戸時代末期ごろ、現在の北杜市長坂町や大泉町（谷戸城の周辺や長坂駅の周辺）にあった村々の人々は、馬で荷運びをして諏訪と交易を行っていました。しかし、諏訪に抜ける山道である棒道は細り、道に迷う人もいたことから、地域の人々が資金を出し合って道を整備し、一町（約109m）ごとに石仏を置いて道標とし、旅人や商人たちの安全を願ったといえます。棒道は旧道の道筋がはっきりしない箇所が多いのですが、石仏が安置されたこの区間は古い道筋を比較的好く残しています。

火の見櫓から西国三十一番の石仏までは未舗装の道で、古道の趣を残しています。道筋の一部は防火帯として拡幅されていますが、馬一頭、人一人がすれ違える程度の、古い道幅を残していると思われる箇所もあります。今はカラマツに囲まれています。かつては草原が広がっており、馬草などを採る入会地でした。ただ古道歩きを楽しむだけでなく、昔の面影を重ね合わせながら歩くと、より深く魅力を味わうことができます。

コース概要

S 火の見櫓跡 **G** 北杜市考古学資料館
距離：約7.5km 所要時間：約4時間



モデルコース② 湧水をたどるコース

八ヶ岳がもたらす水の脅威と恵み

八ヶ岳は山麓に湧水が多く、貴重な水源として恩恵をもたらしましたが、一方で「おんだし」と呼ばれる山津波（土石流）を引き起こし、大きな被害をもたらしました。棒道の周辺には、湧水とそれを分け合う工夫、ごろごろと転がる大岩などの「おんだし」の痕跡が今も残されています。

コース概要

S JR甲斐小泉駅 **G** 三分一湧水館
距離：約10km 所要時間：約5時間



モデルコース③ 信玄棒道コース

信玄が切り開いた軍用路という説がある 棒道の一部区間（自然路）を散策する

小淵沢駅からスタートし、火の見櫓から棒道に入り、甲斐小泉駅まで歩くコースです。棒道は武田信玄が切り開いた軍用路だといわれることから、このコースは「信玄棒道」として親しまれ、北杜市観光協会のウォーキングマップでも紹介されています。

コース概要

S JR小淵沢駅 **G** JR甲斐小泉駅
距離：約8.5km 所要時間：約4.5時間



モデルコース④ 信玄伝説の地コース

武田信玄を敬愛した民衆の思いをたどる

江戸時代末期の棒道整備について記した道祖神や文書には、棒道は武田家の道、武田信玄の道だと記されています。また、道の周辺には信玄が戦勝祈願をしたと伝わる寺や、御神体を奉納したといわれる神社、信玄の名が刻まれた碑などが現存しています。こうした痕跡は、江戸時代以降、この地に住む民衆によって作られたものと考えられます。八ヶ岳南麓に住む人々にとって、信玄が身近な、そして尊敬すべき存在であったことを推し量ることができます。

コース概要

S JR甲斐小泉駅 **G** JR小淵沢駅
距離：約11km 所要時間：約5時間

